

3-9 大学情報化職員基礎講習会

本講習会は、職員による教育支援、人材育成支援の積極化を図るため、大学が抱える教育問題、人材育成の現状について共通理解を深め、問題解決のための取り組みについて業務の在り方を模索するとともに、情報技術の活用による新しい支援の可能性と限界について、基礎知識を修得することを目的としている。講習会の企画・運営・実施は、研修運営委員会（委員長：山田 憲男、日本女子大学）を継続設置し対応した。以下に活動を報告する。

（1）開催要項の決定と実施準備

本年度は、昨年度と同様、研修会の趣旨を共通理解する全体会、大学改革に必要な基本的な知識を学ぶ講義、講義で学んだ内容を基に大学改革に繋がる意見交換を行うグループ討議の3つの柱でプログラムを企画することとした。

講義では、大学改革に求められる職員の役割、大学改革のために必要な情報化戦略の在り方、ITを活用した教育支援の具体像やFDの推進、情報を資産として活用することの意義とセキュリティ対策について学ぶこととし、適宜事例を織り混ぜるように配慮した。

全体会では、井端事務局長より、「これからの授業改善」と題して、現状の授業での問題点や改善のための課題等について、共通理解を図るためのセミナーを行うこととした。このセミナーでは、参加者の理解度を確認するため、携帯電話意によるアンケートを適宜行い、授業での理解度把握のイメージを体験することにした。

グループディスカッションでは、前年、テーマが散逸したとの指摘を受け、討議テーマを講義の中から選択するよう運営を工夫することとした。

平成18年度大学情報化職員基礎講習会開催要項

1. 開催趣旨

人材育成を最大の使命とする大学教育について、社会から質の保証が問われている。それに応えるためには、教育改善に向けて理事会、教員組織、職員組織が一体となって取り組むことが要請される。このような中で職員の役割は、教育改革を効果的に進めるためのコーディネート、マネジメントを通して教育支援、人材育成支援を実現することにある。

そこで、本講習会では、講義およびディスカッションを通じて、大学職員に求められる役割や責任を理解するとともに、魅力ある大学づくりのために

各参加者の意識改革を促すこととする。

2. 講習の進め方

大学が抱える様々な課題について、研修運営委員会が選出したそれぞれの分野で経験豊富な私立大学職員(管理職相当)が、各80分4回の講義を行います。

研修後半にはグループディスカッションの時間を設け、講義の内容と自己の業務を関連付けて考えることにより、本講習会の趣旨をより明確に理解していただくことにしております。

また、講習の理解促進を図るため、講演、事例紹介、用語解説、私情協の活動紹介などを随所に盛り込む予定です。

※ 本講習会は、単なる情報リテラシーの習得、IT活用による業務の効率化、事務システムの構築、運用のノウハウの習得を目指すものではありません。またPC等による実習は行いません。

3. 受講対象者：

加盟大学・短期大学の職員で、情報技術を活用した業務の情報化と教育支援に関する基礎知識の修得を希望する方。

4. 日程：平成18年7月5日(水)～7日(金)

5. 会場：浜名湖ロイヤルホテル

(〒431-0101 静岡県浜松市雄踏町山崎4396-1 053-592-2222)

※ 本年度は合宿研修となります。参加者は全員上記ホテルへ宿泊いただきます。

※ 原則としてツインルームとします。部屋の割り当ては当方で行います。

6. 募集定員：250人

7. 講義概要：

講義1. 「期待される職員像 ～教育・研究の支援者としての働き～」

講師：杉町 宏氏(立命館大学情報理工学部事務室事務長)

本講義では、大学の教育・研究活動が抱える問題点について共通認識を持つとともに、その解決に向けて職員に求められる基本的な能力・姿勢について解説する。

とりわけ基本的な能力の一つとして、教員との協働化、経営管理組織への提案、職員組織間での調整・マネジメントを取り上げる。

(キーワード)

- ・ 大学を取り巻く情勢
- ・ 社会が求める人材育成とのギャップ
- ・ 企業の社会的責任(CSR)と大学の社会的責任(USR)
- ・ 教育改革の必要性

- ・ 教職協働のあり方
- ・ 教育・研究の支援者としての働き
- ・ 求められる資質・職員像

講義2 「情報化戦略の基本的な考え方」

講師：石井 博文氏（芝浦工業大学学事部部长）

大学を改革するための戦略やビジョンがなければ、情報システムを構築しても業務の省力化にとどまり、基本問題の解決には至らない。

本講義では、日常の業務を見直す中で問題解決のための取り組みについて整理し、それを実現するための一つの手段としてIT 活用の可能性と限界を模索するとともに、管理運営、教育・研究の組織・体制、情報の基盤環境のあり方についても考察する。

（キーワード）

- ・ 組織と体制作り
- ・ 大学に求められる情報武装
- ・ 情報の基盤環境
- ・ 管理運営方法の改革

講義3 「教育支援の手段としての情報技術」

講師：梶田 晶子氏（東海大学総合情報センターシステム開発課課長）

本講義では、教育改善を実現するための有効な手段として、情報技術の活用を取り上げる。多様な学力・モチベーション・価値観を持つ学生を、大学が質保証して社会に送り出すには、従来の授業形態や学生指導の方法では限界がある。教員に対する教育支援や学生の学習指導の支援、キャリアアップ支援についての試みを紹介するとともに今後の課題や対策を考えていく。

（キーワード）

- ・ 教育支援の全体像
- ・ 「教える授業」から「自ら学ぶ授業」へ
- ・ ITを用いた教育支援の試み
- ・ 教育力強化（FD、eラーニング、教授法、授業構成や内容）
- ・ 教育支援組織
- ・ ITを用いた学生支援の試み（入学時、履修、卒業時）
- ・ スタッフ・ディベロップメント

講義4 「情報資産の活用とセキュリティ」

講師：高橋 清隆氏（東洋大学情報システム部情報システム課長）

大学が教育・研究活動を発展的に持続させていくためには、基盤環境としての情報武装が必要である。例えば、修学指導情報、進路・キャリア支援情報、経営戦略に関わる情報、自己点検・評価に関する情報、研究情報、校友組織による教育支援情報など、貴重な情報資産がある。また、これらの情報

を活用して新たな教育研究戦略の情報を創造することが必然である。

このような状況の中で、積極的に公開してもよい情報と、守るべき情報を明らかにするとともに、情報の価値に応じた管理のあり方やセキュリティ対策、情報への接し方などについてコンプライアンス（法令遵守）や技術面での対策について解説する。

（キーワード）

- ・ 情報の活用とは
- ・ 情報のデジタル化が意味すること
- ・ 情報の利便性と危険性
- ・ 大学の情報資産とは（東洋大学の例）
- ・ 説明責任としての情報開示
- ・ 情報セキュリティ

（２）開催結果と次年度の計画

参加大学は116大学、3短期大学の総勢249名であった。開催結果の詳細は資料編【資料13】を参照されたい。

参加者の満足度は非常に高く、次年度も基本的な枠組み、講義内容は踏襲して企画にあたることとしている。討議についても満足度は前年より高くなってはいるが、班毎に討議の進め方が異なっていることもあり、より均質で質の高い討議運営となるよう、運営の手法を見直すことにしている。

参加人数について、最終的には前年並となったが、出足が遅かったため、来年度は、開催要項発送に先立ち、本講習会の概要や参加者の反響を取りまとめて案内する予定である。

